

大分県議会議員

すえ むね

ひでお

末宗 秀雄

SUEMUNE HIDEO
KENSEI REPORT

活動報告

ごあいさつ

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より並々ならぬお力添えを賜り、誠に有難うございます。

新型コロナウイルス感染症対応も3年目になり、ワクチン接種等さまざまな対策を行っていますが、未だに出口が見出せていません。

この様な中、2月24日、ロシアが突如ウクライナへ侵略し、戦争が勃発しました。世界は震撼し、21世紀にこの様な戦争が起こるとは想像もしていなかったことです。このプーチン大統領による身勝手な戦争を一刻も早く終わらせなければいけません。

フランス革命の申し子「ナポレオン」は英雄として讃えられています。ナポレオンはフランス革命の「自由・平等・博愛」という精神を世界に広めようという大義を下に戦争を起こしました。他の国においては、特にロシアは、ツァーリ(ロシア皇帝)の専制政治の下、国民は苦しみ、本当のことを言えない政治であったため、ナポレオンを歓迎することも多かったようです。これが英雄であるナポレオ

ンと単なる侵略欲で動いているプーチン大統領の違いであると考えます。

現在、ウクライナはロシアからの攻撃で壊滅状態にありますが、海外にいたウクライナ国民が男女関係なく祖国に戻り戦争に参加及び、支援する動きが多くあります。

日本には、「虎は死して皮を留め人は死して名を残す」ということわざがあります。虎は死後その毛皮が珍重され、偉業を成した人は死後その名を語り継がれるという意味ですが、正に現在のウクライナ国民を表しております。私はその行動を見て、リーダーたる者はかくあるべしと再認識したところであります。一刻も早く、ウクライナ国民に平和な日々が訪れることを切に願います。

日本国内においては、原油価格及び物価高騰に直面し、国民生活が逼迫しています。政府の対応策は不十分で、更なる支援等が不可欠です。大分県としても独自の施策を打ち出していくべきであり、私も県執行部に対し訴えていきたいと存じます。

結びに、故郷宇佐の発展の為、「県民目線で、着実に成果を出す」を常に心に刻み、大分県議会議員として取り組んでまいることとお誓い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

持続可能な地方創生を実現するために

〈令和3年第3回大分県議会定例会 一般質問〉

寄藻川治水対策について

末宗議員

私の地元の寄藻川の治水対策について伺います。

寄藻川は以前、河川改修をしていますが、土砂の堆積も見られ、激しい雨が降ると川が増水し、堤防を越えるのではないかと不安に感じます。また、下流では海に向かって急に河川が曲がっていることや、先程申した田箇川や豊後高田市内を流れる桂川の三つの河川が同じ河口に流れ込んでいるため、上流部で同時に大量の降雨があった場合には河口付近で冠水の懸念もあります。その解決策として、寄藻川の河道を直線化する新たな水路、川を造ってどうかと考えています。

そこで、今後の異常気象に対し、浸水被害を防止し、若しくは最小限に食い止め、住民の命を守るため、寄藻川の治水対策にどのように取り組まれるのか、県の考えをお聞きます。(右図面参照)



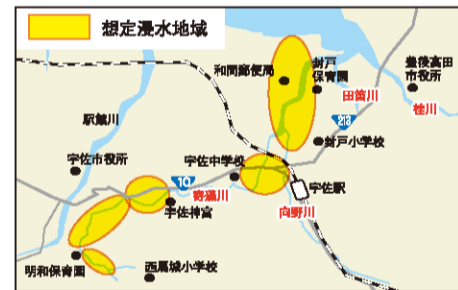
執行部

現段階は河川内の堆積土砂は流れを阻害するため適切に撤去しており、定期的に堆積状況を調査するとともに、住民の皆様からの御要望も踏まえながら、河床掘削を実施しています。御提案のことについては、災害を防いでいくことは非常に重要なことであり、1万人以上の方が影響を受けるということであれば、よく考えなければいけない問題だと思えます。

県では、気候変動による水災害リスクの増大に備え、流域治水プロジェクトを策定し、8月に公表したところですが、これまでの河川管理者による対策に加え、例えば、田んぼダムやため池を活用した流出抑制、森林の保水力向上など、あらゆる関係者の取組により流域全体で効率的、効果的な治水対策を進めていきます。

末宗議員

これは、最優先でやらなければいけないことであります。よろしくお願いします。



県道和気佐野線について

末宗議員

宇佐市の東西を結ぶ県道と和気佐野線は、フラワーロードとして地元自治会や学校、企業などの各種団体が沿道の花壇に植栽を行うなど、宇佐市民に愛着のある道路であり、沿道住民の生活道路として利用されています。

一方で、混雑する市街地を通る国道10号を迂回する道路としても利用されており、交通量も非常に多いと感じています。

交通事故についても、近年は年間10件以上の人身事故があったと聞いています。これは直線道路で信号機が少なく、スピードが出やすいことも事故が多い背景の一つにあるのではないかと考えています。また、大型車の通行も多く、最近舗装のひび割れや轍掘れが目立つようになっており、安全な走行に支障が生じるのではないかと心配しています。

そこで、このような状況にしっかりとした対策が必要と考えます。具体的には、4車線化が最適ではないかと考えています。執行部の見解をお聞きます。

執行部

和気佐野線における交通事故は、過去3年間に42件発生しています。このうち、前方不注意等による追突事故が25件、交差点での出会い頭等の事故が12件、はみ出しによる正面衝突等の事故が5件となっています。

こうした事故の実態を踏まえ、警察や学校等の関係機関と協議しながら、ハード、ソフトの両面から対策を講じています。

舗装の劣化に対しては、大型車の交通にも耐えられるよう、舗装の打ち換えにあわせてアスファルト下の地盤も強化しています。

引き続き、道路の利用状況等を注視し、警察等の関係機関と連携しながら、交通の安全確保に努めます。

また、和気佐野線の4車線化について御提案いただきましたが、現在、同路線の海側に並行する中津高田線の整備をしています。まずは、その進捗をしっかりと図っていきたく考えています。

末宗議員

今後、早急に予算の着手、調査費を要望します。

コロナ対策について

全国でオミクロン株による感染が拡がり、今や「第6波」から「第7波」に移行し、その渦中にあります。感染症対策と社会経済活動を両立する必要があります。そのためには、4回目のワクチン接種を円滑に進める必要があり、更に現在の指定感染症分類第2類では、社会経済活動に重大な支障があるため、第2類から第5類(季節性インフルエンザ相当)に移行し、医療費は今迄通り無料として対策を講じるべきと考えます。



※写真はイメージです